



＜市長・市議と討論する小原議員＞

が月に1万5千円(=150ドル)には驚いた。通常は、市議会は第1、第3の月曜日、午後7時から開催される。市議会は民間の取締役会のようなもので、市長と6人の市議で構成されていて、執行責任者(City manager)を採用して行政を執行させる。2時間程の会談を通じて、米国の地方自治体は、合理的な運営をしている事が理解できた。貴重な時間を割いてくれた関係者に感謝したい。



## ⑩ 瓜生さんのおもてなしの心

オンタリオ市へ4日の滞在中、瓜生氏の車で、牛の牧場や、ライフルの試射、その他各地を見学することが出来た。オンタリオを離れる予定の前日、突然、瓜生氏から提案があった。ボイシー空港からの早朝の出発は、時間的にタイトなので、前日にボイシー市内へ移動しておくのがベターとのこと。自分は早朝にハワイに行くので、ホテルを予約してある。そこに泊れば良いとのこと。この好意を受けることになり、ツインの部屋に4人で泊った。費用を負担する瓜生氏がソファで寝た上に、ホノルルで我々を案内するために早朝の3時半に起床してホノルルへ飛び立った。ホノルルでは我々を空港に迎えに来てくれるとの事。信じられない位の瓜生氏のおもてなしに感動した。

## 10) ホノルル空港へ

ボイシー空港からサンフランシスコ空港へは予定通りだったが、シスコ空港では機材の入れ替えがあり、最初は2時間、次いで3時間の遅れがあり、

予定より5時間遅れてホノルル空港へ到着した時、瓜生氏が予定通り迎えに来てくれていた。大変な迷惑を掛けたものだ。

5時間遅れの到着のため、ワイキキでの活動に狂いが出て、大損をした気分になった。古川氏の定宿の”Sand Villa”はワイキキの浜辺からそう遠くない、便利な場所にあった。翌日の午前中はワイキキ浜辺をはじめオアフ島の東海岸を見物し、午後には瓜生氏の奥さんの妹さんのお家へ昼食に招かれた。お嬢さんのご主人はCharles H. Nishimoto氏で50%ハーフ日系人。奥さんは2世。家の庭には大きなマンゴの木があり、マンゴの実が沢山なるそう。ハワイの日系人は多いが、日系人の家庭に呼ばれる機会は少ないので貴重な体験であった。



## 11) オアフ島の東北部へ

今日は、オアフ島の北部への旅行だ。以前、ポリネシアンセンターはポリネシアの芸能を残し、ポリネシアの若者に勉学の機会を与える目的があると聞かされたが、今では存在感が無く通過。オアフ島の南部のワイキキは雨が少ないのに、北部は地形上から雨が多いので北部の山々は熱帯性樹木に覆われていた。ツアーのスポットである仏教のお寺を訪問。ハワイでは真言宗徒が多いようだ。親鸞聖人の銅像が建っていた。次いで訪れたのはパンチボウル。米軍関係者の墓地である。瓜生氏は当時、米軍に従軍していたので、この墓地に墓地を確保しているらしい。氏曰く、内地のオンタリ